

令和3年度第2回伊勢市産業支援センター運営協議会 議事録

- 1 日 時：令和3年11月2日（火）14：00～15：30
- 2 場 所：伊勢市産業支援センター 研修室
- 3 出席者：委員 10名
事務局 商工労政課：東世古課長、南主幹、山中
産業支援センター：澤村センター長
欠席者：5名（濱口委員、木本委員、牛場委員、村田委員、河井委員）
- 4 概 要：内容は以下のとおり。
 - (1) 議題
 - ①前回運営協議会意見に対する回答
(主な意見等)
 - ・ どれくらい産業支援センターの建屋に経費をかけられるのか、伊勢市にどれくらいの財政的なゆとりがあるのかで話が変わってくる。例えば全く資金がないのであれば、UターンIターン企業を探してこの施設を貸すのであれば財源があまりなくてもできるのでは。テレワークをしたいなど地方に避難する企業があると聞くので、場所としてはいいのでは。どのくらい伊勢市に財政的な余裕があるのか。
 - 伊勢市の財政状況としては新規の事業に経費をかけるのは現実的には難しい、というところまで来ている。
 - ・ 現実的には難しいと思うが夢のような話を。江戸時代には伊勢は文化的に高いレベルで、政策の決定の場でもあった。若年層を育てるという意味では、例えば博物館を作るとか、今も博物館はいっぱいあるが全て神宮の関係。そうではない博物館を作るってみてもよいのでは。
 - ②伊勢市における産業支援のあり方と産業支援センターの今後の方向性について
資料に基づき説明
ハード面からソフト面への支援に移行
産業支援センターを廃止する方向で検討
(主な意見等)
 - ・ (機械設備の利用について) 三重県工業研究所など他の施設への紹介とあるが、大学の施設は外へ貸し出すようになっているが、オペレーターがいない。伊勢市で大学の施設を使えるような人を養成する必要がある。
 - ・ 今は少し変わってきて、共同研究を結んだら使用することはできる。研究費がないので、企業からお金を入れてもらって、これをやってほしいと言えば、対応できる

ようになっている。施設を廃止する場合、今ある機械はどうされるのか。機械を廃止するのか。市内企業にもらっていただくということをまず考えたかどうか。

→単純に廃棄するのではなく、引き取り先は探す。

・もらっていただいたら、その企業がメンテナンスをして、いくらかの使用料を出したら周りの企業も使えるようにする、という方が現実的では。

→作業実習室の木工機械は、何十年とたっているもので、すぐに撤去するように言われている。保守をするようなレベルではないものもある。専門家のご意見もいただきながら、処分し、まだ使えるものについては引き取り先を探していく。

・引き取り先を探した後は、どこでこういった機械が継続して使えるということを告知するというのも大事。センターの建屋はどうするのか。

→建屋については具体的にはまだ考えていない。処分になるのか、違う用途で使っていくのか、これから検討する。

・創業については、最近は簡単に起業ができてしまっているパターンが多い。工業系はほとんどない、最近多いのはエステやネイルなどの美容、知らない間に店が出来ている。今はアパートの一室や古民家の一室などで開業され、外からはわからない。そのような創業では、起業家支援室は恐らく利用されない。また、このような方々は経理が全くわかっていない。創業後の支援は永遠の課題。

・アンテナショップのようなものはやはりあった方がよい。費用はかかるが市の空いている土地などに建物を建てて、チャレンジショップのような形で2・3年で力を付けて独立してもらい、そのようなことができれば創業者への支援につながるのではないか。

・ハード面がなくなると、ソフト面の支援ということだが、利用者がどこへいったら相談できるのか、支援していただけるのか、心配なところはある。これは今後考えていくのか。

→商工会議所・商工会、市、場合によっては観光協会と連携しながら役割分担を考えて、例えば相談であれば中小企業相談所にお願いしたり、市としてこの分野を担うのか、などを決めていきたい。

・この施設の当初の目的、企業の誘致などはある程度達成されたと思う。そうなること事務局で示された方向性になるのだろうと感じている。

・この支援センターを建てる前からかかわっているので残念だ。創業者のフォローアップは続ける必要があると思う。三重県よろず支援拠点でも相談の1割くらいは創業者。1回相談があっても、次来てくれないと継続した支援ができない。創業してもすぐやめてしまう人が多いので、続けられるような支援が大切。ハード面はやめてもソフト面は続けてほしい。

・最初入った人で成功している人もいると思うので。一度今までの利用者のリストがあれば見せていただきたい。企業誘致は成功したのでは。

- 企業の流出防止というのがセンターの一つの目的だったが、役に立った部分はあると思っている。今後はどこに誘致をしていくのか、というのが大きな課題となっている。センターとは直接関係ないが、そういった課題もある。
- ・どこかの企業が入るには安心な場所、ここに入りたい企業はあるのではないか。もしそういう企業がなければ、違う用途で、例えば子育て支援などの場としてあってもよいのではないか。
- そういった活用は当然必要だと思っている。中身についてはこれから考えていく必要がある。
- ・ソフト面の支援は商工会議所や市役所に1部屋相談できる場所を設けてもらった方が便利。
- 指定管理者の身で言うことではないが、一つ言うのであれば、市としてこの施設をどのように活用していくのか、ソフト面の支援をどのようにもっていくのか、という問題だと思う。産業支援センターは後発の組織なので、商工会議所、商工会、市などの大きな政策の中に入って行きづらい。すきまをついていけるところを伴走的に支援をしていくという実施体制でやっている、それがこれからの市の産業支援につながっているのであれば、これからも尽力していきたいと現場としては考えている。
- ・建屋に関しては先ほど出た意見のように、活用していったらよいのでは、機械なども、例えば工業高校で活用してもらうなど、より有効に活用できるような形になればいいのではないか。
 - ・やはりこの辺りの地域では伊勢がリーダー。思い切ったことをいうと、商工会議所とか商工会とかをここへ入れて、市町や商工会議所・商工会の垣根がないところで議論ができるような場所をつくるなど、発展的なことをやってほしい。ものづくり（への支援）を止めてはだめ。
- 若年層にどうやって地元に着してもらうかは大きな課題。地元企業へ就職してもらうような取り組みは、産学官での連携は非常に重要になってくると思っている。アイデアがあれば教えていただきたい。
- ・生徒や保護者にも地元ですばらしい企業がある、ということを発信していかないといけない。インターンシップも考えるが、地元への就職につながっているかという点必ずしもそうではない。インターンシップの新しいアイデアを一緒に考えていただけるとありがたい。
- インターンシップについては、商工労政課の労政係でインターンシップの受け入れを市内の事業者へ声掛けしている。今年度からは企業自らが情報発信をするための動画作成の補助金を設けている。事業者とも連携して取組んでいきたい。
- ・先ほど出た地域や商工会議所などの垣根を超えた連携は素晴らしい意見だと思う。
- 広域連携については負担金をもらって連携するというやりかたがスタンダードに

なっている。全国的に財政が厳しい中で、声掛けしても連携にのってもらえないこともある。伊勢志摩や定住自立圏や南三重などいろんな枠組みがある中で、伊勢市が旗振り役でありたいとは思っている。ご意見をいただければと思っている。

→広域連携はいろんな形があるので、どのようなまとまりでどういうことをすれば効果がでるのか、研究しながら考えていきたい。

→あり方については、商工会議所・会議所、場合によっては観光協会とも連携して、創業やものづくりの支援のあり方等についても、早急に検討していかないといけないと考えている。市としてもこの施設をどうするのか、ということも並行して考えていく。この会議で市の提案（施設廃止、ソフト面の新たな支援体制の構築）が認めただけなら、そのような方向で進めていきたい。